

TOEIC 対策講座の実践報告：日本人英語教員と英語母語話者教員の視点から

井上, 奈良彦
九州大学言語文化研究院

津田, 晶子
中村学園大学

岩本, 弓子
福岡大学：非常勤

マクドナルド, ケリー
福岡大学

<https://doi.org/10.15017/4363543>

出版情報：基幹教育紀要. 7, pp.175-188, 2021-02-25. 九州大学基幹教育院
バージョン：
権利関係：



TOEIC 対策講座の実践報告：日本人英語教員と英語母語話者教員の視点から

井上 奈良彦^{1*}, 津田 晶子², 岩本 弓子³, ケリー・マクドナルド⁴

¹九州大学言語文化研究院, 〒819-0395 福岡市西区元岡 744

²中村学園大学, 〒814-0198 福岡市城南区別府 5-7-1

³福岡大学非常勤, 〒814-0180 福岡市城南区七隈 8-19-1

⁴福岡大学, 〒814-0180 福岡市城南区七隈 8-19-1

A Practical Report on a TOEIC Preparation Program: From the Joint Perspectives of Japanese and Native Speaking English Instructors

Narahiko INOUE^{1*}, Akiko TSUDA², Yumiko IWAMOTO³, Kelly MACDONALD⁴

¹Faculty of Languages and Cultures, Kyushu University, 744, Motoooka, Nishi-ku, Fukuoka 819-0395, Japan

²Nutrition Science Department, Nakamura Gakuen University, 5-7-1, Befu, Jonan-ku, Fukuoka 814-0198, Japan

³Part-Time Instructor, Fukuoka University, 8-19-1, Nanakuma, Jonan-ku, Fukuoka 814-0180, Japan

⁴General Education & Research Center, Fukuoka University, 8-19-1, Nanakuma, Jonan-ku, Fukuoka 814-0180, Japan

*E-mail: inouen@flc.kyushu-u.ac.jp (Corresponding author)

Received Oct. 30, 2020; Revised Nov. 07, 2020; Accepted Dec. 12, 2020

This paper is a report on a TOEIC preparation program run by Kyushu University's Job and Career Support Center and is based on the practical experience of a Japanese coordinator, two Japanese instructors and two Canadian instructors throughout the course of its development. The program has been running consecutively for the past ten years and is offered to both undergraduate students and graduate students enrolled at Kyushu University. In the 2020 academic year this course was granted approval for official accreditation from the university. The paper covers the following four points: 1. Installation of the accredited program; 2. Career development and topics frequently appearing on Part 6 and Part 7 of the reading section of the TOEIC Listening and Reading Test; 3. The role of a Japanese teacher in teaching practical skills and TOEIC test-taking strategies; and finally, 4. Recent changes made to the TOEIC Listening and Reading Test and implications this has on teaching from the perspective of a native English speaking instructor.

1. はじめに

筆者らは 2020 年度九州学務部キャリア・奨学支援課主催（同大学院言語文化研究院協力）の「TOEIC 対策プログラム」（<https://www.kyushu-u.ac.jp/ja/education/employment/TOEIC>）において、8 週間の平日夜間コースと、土日集中コースで、様々な学部・学府から集まった九州大学の学生、大学院生を指導した。このプログラムでは言語文化研究院の井上がコーディネーターを務め、カナダ人英語教員のマクドナルド、デ・リント、日本人英語教員の津田、岩本がインストラクターとしてコースデザインと指導をしており、平日コースのうち、入門者向けの Intro は日本人教員 2 名が担当している。どのクラスを選ぶかは学生に任せているため、Intro クラスであっても、上位クラスや TOEIC の受験経験が多い学生が在籍している場合もある。なお、2020 年度より、このコースは単位

認定科目となった。また、2020 年度についてはコロナウィルス感染予防のため、対面授業を避け、Zoom と Moodle を併用しながら、授業を進めた。

本稿では、プログラム導入の経緯と単位認定のシステム（井上）を概説し、授業担当者として、TOEIC 公式問題集のリーディング問題にみるビジネスコミュニケーション（津田）、TOEIC 受験と日本人講師の役割（岩本）、Reflections on the Updated TOEIC Listening and Reading Test from the Perspective of a Native English Speaking Instructor（ケリー・マクドナルド）が事例報告をする。

2. 単位認定のシステムについて

九州大学においては、これまで様々な形態で、TOEIC 等の英語試験対策の講座や授業が実施されてきた。正規の英語科目においては、テスト・テイキング等の科目も開講されていた時期もあるが、現行の学部基幹教育科目の英語プログラム（Q-LEAP およびその後継 Q-LEAP II）は、限られた教員資源等の制約により学術英語の特定の領域に特化した内容を中心に提供するという趣旨の下、TOEIC を含めテスト対策科目は開講していない。なお、2000 年代初頭の九州大学の英語プログラムの詳細については津田（2005）と Inoue（2005）で詳細な記述と分析を加えたように、TOEIC による学生の英語力評価等も実施されていた。また、学術英語カリキュラム（Kyushu University Learning English for Academic Purposes (Q-LEAP)）について、当初の理念は Yasuda et al. (2014) と Yasuda (2015) に詳しい。その後の変化は鈴木（2018）、Inoue (2018) が参考になる。

一方、キャリア支援の文脈においては、国立大学法人化と時期を同じくして学生の多用なニーズに応える取り組みが企画され、九州大学においても学務部の下に就職支援室（現在の学務部キャリア・奨学支援課キャリア・就職支援係の前身）が 2003 年 10 月に設置されている（那須, 2004, p. 86）。法人化後の事業報告書を見ると、企業を対象としたアンケート調査から明らかになったコミュニケーション能力の育成の必要性などを踏まえ、TOEIC プログラムが実施されたことがわかる（九州大学, 2006; 2007）。その内容については井上・他（2010）が報告している。ただし、筆者（井上）の記憶ではこれ以前に散発的に TOEIC 講座などが開講されていた可能性もある。

本 TOEIC 対策プログラムは受講完了者の満足度は概ね高い評価を得ているものの、途中脱落者の対策が難しく、近年は受講生の減少も目立つようになった。原因の特定はできていないが、学生の英語学習環境の多様化（インターネット上の無料教材、経済的に可能な場合は学外の英語学校等の有料講座受講）や秋から冬にかけての受講取りやめ要因（学園祭、卒業研究等による多忙など）が推測される。

このような背景の中で、TOEIC プログラムへの関心の向上と受講継続のための動機付け強化のために、2020 年度において、講座の受講による学びを基にした正課の単位付与の仕組みとして、基幹教育総合科目（オープン科目）の中に次のような趣旨の科目を開講することを申請し、認められた。

「英語コミュニケーション能力と TOEIC」(KED-GES1221W)

外国語コミュニケーション能力の測定は学習者にも応用言語学者にも興味深い問題です。日本においては TOEIC が多くの企業等が採用や昇進の基準として導入し、多数の大学で大学院入試の英語能力資格としても採用されています。本科目では、学生のキャリア形成において特定の試験が担う機能について考え、英語コミュニケーション能力、特に TOEIC によって測定される能力を検討します。また、TOEIC の問題に取り組むことによってその実態を理解し、得点の向上も目指します。(https://ku-portal.kyushu-u.ac.jp/campusweb/ から検索可能)

このオープン科目群は教員の自主開講という仕組みにより、多様な科目を提供することを目的としている。履修者は TOEIC 講座の受講を通して自身のキャリア形成と英語試験の関係等を現代日本社会の文脈の中で学び、その学習成果に基づき単位取得することができる。

この新たな取り組みの成果を検証することは今後の課題である。今年度、受講申し込み数は昨年度よりも増加しているが、コロナ感染対策による講座の完全オンライン実施という新たな要因が同時に発生したため、単位化の直接効果を測ることはできない。また、講座途中の受講生の減少については本稿執筆時点では判明していない。

3. TOEIC 公式問題集のリーディング問題にみるビジネスコミュニケーション

3.1. TOEIC 対策のための市販教材

TOEIC 対策のための教材は、(1) 日本で TOEIC を実施している団体、国際ビジネスコミュニケーション協会が出版している公式 TOEIC Listening & Reading 問題集、(2) 海外の出版社が編集している問題集、(3) 日本の出版社が編集している問題集があり、それぞれ特徴がある。(1) については、2016 年 5 月の新形式問題の導入以降 2020 年 9 月現在、新形式 6 冊の問題集が出版されており、各問題集にテスト 2 回分の問題 (200 問 x 2 回、計 400 問) が掲載されている。試験の実施団体が作成しているため、実践的であり、学生の受験前の力試しには最適ではあるが、日本の大学の授業で導入する体裁にはなっていない。(2) 米国や英国の出版社が出版している教材は主に英語母語話者による執筆が多いため、より authentic ではあるが、文法項目が日本人英語学習者にとっては簡単すぎる設問が散見される。(3) 日本の出版社が編集している教材は主に日本人英語教員の執筆であり、TOEIC のターゲットスコア別に分かれていることが多い。日本人の英語学習者にとっては解きやすく、ティーチングマニュアルが充実しているのが特徴であるが、テスト・テイキングのストラテジーに重きをおくため、ビジネスコミュニケーションの観点からはデザインされておらず、(1) (2) に比べると、authenticity に欠ける傾向がある。こういったことから、九州大学の TOEIC 講座では、英語母語話者、日本人の両方の英語教員が担当するため、(2) の英米の出版社が編集している問題集を採用している。

3.2. キャリア開発の視点から見た公式 TOEIC Listening & Reading 問題集のリーディング問題分析

筆者が実施した TOEIC 新形式問題導入前の TOEIC 対策教材のリーディング問題分析（井上・他, 2010）によると、42 問（各 21 問の Practice Test 2 回分）のうち、最も多いのが letter（10 問）、article（9 問）、e-mail（4 問）であった。ETS は時代とともに変化するビジネスコミュニケーション方法に対応するため、2016 年 5 月の第 210 回 TOEIC Listening and Reading 公開テストから問題の一部に新しい出題形式を加えた。

本稿では、公式 TOEIC Listening and Reading 問題集 1 巻（IIBC, 2016 年 1 月発行）、2 巻（同、2017 年 2 月）、3 巻（同、2017 年 12 月）、4 巻（同、2018 年 10 月）、5 巻（同、2019 年 6 月）、6 巻（同、2020 年 2 月）の Part 6, Part 7 を分析対象に、（1）新方式の TOEIC ではどのようなジャンルの問題が出題されているのか（表 1）、（2）就職や求人に関してどのような出題があるのか（表 2）について、検討する。

Reading セクションの Part 6, 7 はすべての問題の上部に、“Questions xxx-xxx refer to the following xxxxx” として、following 以下に文書のカテゴリーが明記されているので、この文言をもとに分析した。新形式の問題では 322 問のうち、最も多いのが e-mail（88 問）、article（32 問）、Web-page（27 問）となっており、前回の分析で出題頻度 1 位であった letter は 23 問と大幅に減っている。また、新形式から出題されているものとして、text-message chain や online chat discussion などがみられる。実際のオフィス環境では、ビジネスレターのやりとりは減少し、e-mail でのやりとりや Web ページからの情報収集が増えていることを反映しているものと考えられる。

（2）については、表 2 のとおり、求人広告、推薦状、履歴書、就職の応募メールなど、就職や求人関係のトピックが頻出している。就職活動を経験したことがない一般的な大学生、大学院生にとっては、なじみのない表現が多く含まれており、九州大学の英語教育プログラムで扱う学術英語ではカバーできない分野となっている。この TOEIC プログラムが、キャリア・奨学支援課主催であることから、英語の求人広告や履歴書、カバーレターの読み書きについても、授業の中で適宜、取り入れていきたい。

表 1 TOEIC 公式問題集にみる文書コミュニケーションの種類

	1. 6	1. 7	2. 6	2. 7	3. 1	3. 2	4. 1	4. 2	5. 1	5. 2	6. 1	6. 2	計
e-mail	7	7	6	7	5	10	9	7	10	6	5	9	88
article	3		2	6	3	3	1	2	4	3	3	2	32
web page		3	1	3	3	1	4	1	2	5	1	3	27
advertisement	3	4	2	1	2	2	1	3	1	2	1	1	23
letter	1	3	5	1	1	1	1	2	1	1	3	3	23
notice	2	1	2	2	1		4	2		1	1	1	17
text-message chain		1	1	1	1	2	1	1	1	2	1	2	14
form		3	1		2					2	1	1	10
online chat discussion	1	1	1		1		1	1	1		1		8
memo	1							1	1	2	1		6
schedule	1	1					1	1	1		1		6
information				1	1				1		1	1	5
survey	1				1	1							3
invoice	1					1		1					3
instructions	1	1							1				3
brochure			1	1	1								3
flyer			1								1		2
web site					1							1	2
press release						1	1						2
policy						1			1				2
online review						1		1					2
invitation								1		1			2
text message	1										1		2
directory	1												1
floor plan	1												1
report		1											1
web-site article		1											1
coupon			1										1
information sheet			1										1
customer review			1										1
calendar			1										1
label				1									1
online discussion				1									1
license				1									1
certificate				1									1
policy statement					1								1
letter to the editor					1								1
online profile					1								1
evaluation form					1								1
book review						1							1
class schedule						1							1
online form						1							1
job advertisement							1						1
table of contents							1						1
letter insert							1						1
newspaper advertisement								1					1
note								1					1
confirmation form								1					1
report page									1				1
campus guide									1				1
budget										1			1
book cover										1			1
information in a brochure											1		1
excerpt from a resume											1		1
cost estimate											1		1
editor's note											1		1
expense report											1		1
card												1	1
order form												1	1
job summaries												1	1
計	25	27	27	27	27	27	27	27	27	27	27	27	322

注：1. 6 は 1 巻 Part 6, 1. 7 は 1 巻 Part 7 を指す。

表 2 TOEIC 公式問題集にみる文書コミュニケーションの種類

巻	テスト番号	問題番号	ジャンル	内容
Volume 1	Test 1	なし		
	Test 2	135-138	letter	推薦状
		154-155	notice	求人広告
Volume 2	Test 1	143-146	letter	就職フェア
		168-171	letter	推薦状
	Test 2	139-142	notice	求人広告
		196-200	article, advertisement, e-mail	求人広告、推薦状のお礼
Volume 3	Test 1	147-148	advertisement	求人広告
		172-175	e-mail	代替業務の依頼
	Test 2	149-150	e-mail	履歴書の更新
Volume 4	Test 1	131-134	web page	求人広告
		139-142	letter	採用通知
		158-160	advertisement	求人広告
		181-185	job advertisement, e-mail	求人広告、応募
	Test 2	135-138	letter	推薦状
		176-180	schedule, e-mail	就職の相談
Volume 5	Test 1	168-171	e-mail	新人研修（制服）
		196-200	web page, e-mail	求人広告、応募、面接の通知
	Test 2	191-195	article, web page, e-mail	企業に関する記事、求人広告、応募
Volume 6	Test 1	151-152	memo	退職者とその欠員補充
		181-185	letter, excerpt from a resume	カバーレターと履歴書
	Test 2	191-195	e-mail, job summary, web page	人員配置の計画、求人広告、人員のプロフィール

4. TOEIC 受験と日本人教員の役割

TOEIC 対策プログラムは英語母語話者講師と日本人講師が担当しており、日本人講師は入門コース担当である。英語指導すべてに共通することであろうが、英語母語話者、日本人教師がそれぞれその特徴、長所を持っており、足りない点を補完する指導が行われるべきであろう。特に入門クラスの学習者にとって TOEIC のような資格試験受験対策を担当するにあたっては、細かい点も短時間で効果的に正確に指導する必要もあり、日本人講師の果たす役割は大きい。本稿では筆者（岩本）が 2019 年に担当した授業を基に事例報告をする。

授業をする立場として以下のような目標を設定した。

- (1) TOEIC の問題形式に慣れ頭の中にきちんと入れて試験に臨めるような準備をする。
- (2) 語彙を増やす。受験英語とはまた異なる、ビジネスや日常生活でよく使われる語彙に特に注意する。
- (3) 文法を復習する。Part 5 だけでなくすべての Part で必要な基礎知識であることを認識する。洋書教科書を日本人講師の立場から補う。
- (4) 即座に大意を掴む（skimming）、即座に正しい情報を読み取る（scanning）といった TOEIC で必要な技術を習得する。
- (5) アメリカ英語、イギリス英語等の訛りの違いにも気づき慣れる。

- (6) 日本人講師自身が受験した時の体験から学習の仕方、試験本番で注意する点の助言を行う。

それぞれの目標に従って具体的に実践したことは以下のような点であった。

試験に臨むにあたってその試験の概要、出題方法、解答方法をまず頭に入れておくことは必要不可欠なことである。第一回目の授業で TOEIC 試験の概要を説明し、出題形式、時間配分などを、例題を示しながら説明。その後毎時間 Listening では Part 1 から Part 4、Reading では (1) について、Part 5 から Part 7 のうちのどれかに的を絞って解説練習しながらできるだけ全部の Part を毎時間解く時間をもうけて、自然と各 Part の出題傾向が身に付くようにした。また資格試験なのでその傾向と対策も伝え、学生はそちらの方に大いに興味があるようであった。たとえば先に設問を読んでから答えを探す、設問と同じ単語が回答の選択肢にある時にはひっかけ問題であることが多いなど。しかしここで必ず強調したのは試験の要領のみを習得しても意味がないこと。やはり常に英語力を高める意識をもって学習することが非常に大切であることである。例えば Part 1 の写真問題では写真の記述であるので現在進行形が多いことに加えて受け身の現在進行形にも注意すること。Part 6 では前後の流れからそこに入る文を選ぶ問題があるが英語は日本語よりはるかに論理の流れが大切で、それが曖昧または論理が飛んでいたりすると日本語と違ってそこを不明瞭にできないので、英語として成り立たないことを指摘。さらにそこに十分注意しながらつなぎの言葉としてどういう言葉が用いられるかなどにも注意することなどを述べて解かせるようにした。

(2) と (3) に関しては、TOEIC でハイスコアをとるためには目標スコアに応じた単語力と文法知識を持っている必要がある。単語や文法が分からないとリスニングパートでは聞き取りが上手くできないし、リーディングパートでは読むスピードが遅くなり内容理解が不十分となり、解答時間が不足したり正解にたどり着くことが難しくなったりする。そのため、毎回授業開始 5 分で単語テスト、授業終了前 5 分で文法小テストを、独自に作成したプリントを使って行った。

(2) の TOEIC の語彙はある程度予想ができる。TOEIC によく出る単語リストを各種問題集、TOEIC 教科書などから選んで毎回 80 語程度示し、自分でそれらの単語の意味を調べてもらった。翌週にその中から TOEIC にとりわけよく出題されるものを 10 題選んで出題した。単に頻出というのではなく、英和辞書で意味を調べても分かりづらいと思われる単語、簡単そうな単語でも意味は意外と知らないと思われる単語、身近な単語であるが受講生は英語圏での生活体験がないので知らないであろう単語、ビジネスに関する単語などを選んで小テストを行った。例えば *mortgage* は英和辞書では「抵当権」、などという意味しか載っていないが日常で用いる場合は住宅ローンのことである。また、*balance* は単にバランスがいいという意味ではなくビジネスで用いる場合は「収支」のこと、*forward* は動詞では「転送する」の意味、*awning* は店の「日よけ」の意味、*ship* はビジネスでは「商品を発送する」の意味などになる。単語は定義を英語で理解することももちろん同様に大切な事であるが、日本人講師としてはまず日本語でその意味を示すと説明を長々せずに学生は意味を素早く掴む事ができ納得しやすいようである。

(3) 文法事項は日本人講師が一番活躍できる分野である。文法は語彙と並んで英語学習の基礎であり、Part 5 (30 問) に直結する。Part 6 (16 問) Part 7 (54 問) の時間を十分にとるためには受験

者はここで時間をあまりかけずに早く終わらせる必要がある。文法事項がきちんと押さえられていれば、すばやく回答することができ、時間もそれほど使わなくて済む。ところが、意外とここで躓き Part 5 で点数が取れない学生も少なくない。洋書の教科書の場合日本人学生に合うように少し説明と改変を行う必要があり、かつ日本人学習者に分かりにくい文法事項を特に取り上げて指導する必要がある。たとえば、関係詞は日本人学生にとっては鬼門とも言える文法事項の一つなのできちんと独立した文法事項として時間を取って教える必要がある。疑問詞との違い、*that* の他の用法との違いなどからめて理解する必要があるが、洋書の教科書では、人称代名詞や不定代名詞と同じくくりで少しだけ触れられていたりして、全く扱われていないこともある。動名詞、不定詞も英語の文法で重要な事項だが、日本語にはない文法事項なので学生には分かりにくく、しっかり理解させる必要があるが、あまり重要な事項として取り上げられていない場合もある。日本人学生には比較的理解しやすい未来形、命令形、他動詞自動詞の違いにそれぞれ1章を割くより、そちらにもっと重点を置くべきだと考える。最も日本の学校文法と異なるのは仮定法である。洋書の教科書では他の印欧言語と同様に **conditional** (条件法) **subjunctive** (接続法) として別々の事項として取り扱われている。日本ではこの二つを一つにまとめて、事実を伝える直説法に対して、事実ではないことを述べるのに使う仮定法、という一つのくくりの文法事項として教えている。日本の学校文法の仮定法としての扱いも問題があると筆者は常々考えているが、学生にはこの辺をできるだけわかりやすく説明しながら問題を解いてもらった。ここで挙げたような捕捉が必要な文法事項は、授業では別に解説のプリントを配った上で小テストをして補った。

(4) 主に Part6、Part 7 に関係する事柄である。TOEIC に出てくる文章はほとんどが実用的な英文で、文学作品、評論、エッセイ、新聞の論説記事、学術的な内容の文など読み込む必要があるものはまず出題されない。Reading の教材としては全く物足りないものではあるが、素早く全体的な内容をとらえ、必要な情報をすくい取る練習はもっと推奨されるべきであるので、そのための練習の良い機会ととらえて指導を行った。Skimming は文の要点を掴む読み方であり、scanning は必要な情報を素早く見つける読み方である。日本の英語教育では余り強調されてこなかったことであり、訳読以外にそのような読み方があることさえ知らない学生が多いので、読みの技術にはそのようなものもあることを紹介し、短い文章から始めて長い文章や複数の段落からなる文章へと難易度を高めて実践的な練習を多く行った。また TOEIC の対策としては設問を最初に読んでおくことが正解を選ぶ上でとても有効であることも指摘しておいた。このやり方は Reading だけではなく Listening でも極めて有効である。日本の listening 試験では時としてすべての語を聞き取ることが期待され、一語一語に耳をそばだて、一番聞き取りにくい機能語を聞き取らせるような問題も見られるが、実際の英語でそこが重要になることはとても少ない。全部を聞き取れなくて自信をなくさせるのではなく、実際の英語の聞き取りの場面では全体的な内容を掴み、必要な情報だけを聞き取ることの方が大切であることを指摘して、メリハリをつけて聞き取りを行うよう指導した。

(5) 当然英語母語話者講師が完全に有利である。日本人講師としてできることは英語には母語話者でも様々な訛りがあって、TOEIC ではそれが混在して出題されることをまず伝えることである。とりわけ、アメリカ英語に慣れている学生が多いのでイギリス英語、オーストラリア英語などを聞かせて違いに気づかせることが必要である。また生の英語に毎日触れる英語そのものの学習機会と

して、短い 10 分間のアメリカの高校生向けの “CNN 10” (旧 “CNN Student News”) や “BBC Learning English” の “6 Minute English” 等の無料で聞けるウェブサイトを紹介し毎日少しずつ平易なニュースを聞くことを推奨した。ニュース司会者の英語は聞き取りやすいし、話題も豊富であり、検定試験の英語という殺伐とした英語の勉強になりがちだが、生の英語に触れ、英語母語話者の英語に慣れ、TOEIC 対策としてだけではなく生きた言語としての英語を学ぶ機会を与えることも TOEIC 受験以降の英語学習につなげていく上でとても大切なことである。

(6) 日本人教師は自分が TOEIC を受けた時の体験を話す事ができる。これは体験から言えることなので受講者もわりと耳を傾けてくれるようである。例えば Part 7 は一番設問が多く時間もかかるので時間配分がとても重要であること。Listening Part 3, 4 では一度しか話されないののでできるだけ次の質問に早く目を通し、Listening だけではなく Reading の速読力も試されていると思いながら受けること、どうしても答えに迷ってしまったら一番常識的な内容と思われるものを答えとして選ぶこと、受験のための手続きも会場の都合などもあることを考えて余裕をもって行うことなど。

入門コースの学生は TOEIC を初めて受ける学生がほとんどで、受講生 11 名の講座受講前の IP テスト (第 1 回目もしくは第 2 回目) の得点は 990 点満点で 450-765 点であった。講座終了後の IP テスト第 3 回目を受験したのはそのうち 6 名で得点は 500-780。全員が得点を伸ばし、伸びた点数は 10 点 (1 名) 15 点 (2 名) 30 点 (1 名) 75 点 (1 名) 90 点 (1 名) であった。講座前の受験から講座後の受験まで期間が短かったことを考慮すると、講座を受講した効果はある程度あったと言えるのではないかと考える。参考のため、各受講者の得点を下記の表 3 に示す。

表 3 初級受講者の IP テスト得点

受講生 No.	第 1 回 IP	第 2 回 IP	第 3 回 IP	差
1	730		740	10
2		735	765	30
3	765		780	15
4		750	765	15
5		530	620	90
6			630	
7		450	525	75
8			500	
9			510	
10			685	
11		690		

(2019 年度九州大学生協実施による TOEIC L&R IP テスト得点から作成。なお、Listening と Reading それぞれの得点は本稿執筆時点において入手できなかったため、そのほかの分析を含め今後の研究課題とする。)

日本の多くの学生は TOEIC が英語能力を測るもっとも認められている試験であると信じている。

TOEIC は比較的英語も平易で傾向が偏り対策が立てやすく、的を絞って指導すれば効果は出やすい。しかし繰り返し学生に強調したのはスコアが伸びることだけに注目しないでやはり広く英語の勉強をしているという意識を強く持って学習して欲しい、ということである。そうでないと点数だけ高くても実際の実力が伴わないことになってしまう。TOEIC 受験者の 68% は日本人である。またそもそも TOEIC は日本人向けに開発された検定試験である。TOEIC の点数だけにこだわる学生が多いのを見ると、ここでの日本のガラパゴス化は防がなくてはいけないのではないかと筆者は考える。TOEIC ばかりに偏らず世界的に認められ難易度も高い他の試験 TOEFL、IELTS、なども勧めてみる必要は大いにある。なにより英語学習は検定試験のためだけにやっているのではないことも強調して、英語の言語としての楽しさや必要性をもっと教えていかななくてはいけないと思う。

4. Reflections on the Updated TOEIC Listening and Reading Test from the Perspective of a Native English Speaking Instructor

The TOEIC course run by the Job and Career Support Center at Kyushu University has been somewhat unique this year, as it is the first year that students have been eligible for credit and the first time the course has been taught entirely online. These factors, along with the relatively recent changes to the format of the TOEIC Listening & Reading Test, called for a reevaluation of teaching goals.

As a TOEIC instructor I have, until now, primarily sought to introduce skills and test-taking strategies and foster understanding of language usage to help improve the overall English language ability of students with an aim to improve test scores. Because the course is now accredited, another factor comes into play: how to evaluate students on material introduced in a limited amount of time. If credit is awarded based on retention of material covered in class, should content now be more limited in scope and material from outside the textbook more closely related so as to reinforce that which has already been taught?

Another factor to be considered is how the recent changes to the TOEIC test affect teaching. For students who have never taken the test or who have little knowledge of the test, the changes in themselves perhaps need not be addressed. However, from a teaching perspective, reevaluating methods is critical to ensuring that teaching reflects the skills measured on the updated test and that material is taught in a way that addresses difficulties encountered by test-takers under the new conditions.

It is worth noting that there exists a certain amount of speculation regarding the difficulty of the new version of the test in comparison to the old. When asked in one study which they found more difficult, more than 80% of test-takers answered the new (Kanzaki, 2018). The ETS, meanwhile, concluded from a 2015 pilot study that the psychometric properties of the new version were comparable to the old, stating that any discrimination in item difficulty found in the pilot study was subsequently corrected by test developers (Cid, J., Wei, Y., Kim, S., & Hauck, C., 2017).

In terms of subjective views on difficulty, many factors including format and question type could influence test-takers' perceptions, and the sheer volume of the multiple reading passages could make the new version appear more challenging. However, it can also be pointed out that the instant messages, text messages and online chat messages now found in Part 7 naturally contain a great number of colloquial expressions, making

the section more casual in nature than before, thus resulting in a lower difficulty level of English. It should not be forgotten, though, that such types of passages might prove difficult for test-takers who are unfamiliar with colloquial expressions or with technology-based communication.

Indeed, test-takers may have differing views as to what constitutes difficulty on the test, but one thing is certain. The increased number of conversations, which include more turns and sometimes not two but three speakers in Part 3; the incorporation of graphics in Parts 3 and 4; the inclusion of more double and new triple passages in Part 7; and the introduction of new questions testing the understanding of a person's implied meaning in Parts 3, 4 and 7, mean an increase in the volume of material that needs to be processed and assimilated by the test-taker.

The question must then be asked: How can we as teachers be instrumental in the attainment of higher scores under these new conditions? Considering the increase in material to be processed by the test taker, emphasis must be given more than ever to quick and accurate understanding of English found on the test. In particular, the learning of lexical chunks, such as set phrases, collocations, compound words and phrasal verbs, all of which are found in extremely high frequency on the TOEIC test, can be considered significant in “forming associations with vocabulary items in order to establish mutually-reinforcing semantic networks as an aid to memory” (Thornbury, 2019). This may lead to increased processing speed and more accurate understanding of the TOEIC listening and reading.

In my class, I provide examples of collocations, phrasal verbs, and compound nouns based on vocabulary from the textbook. These examples of natural usage serve not only to reinforce vocabulary studied, but also help students recognize words as they are used in context. Compound nouns, in particular, are not always difficult to understand, and such semantically transparent expressions can help reinforce understanding of new vocabulary. Considering the nature of the TOEIC test, however, finding a balance between recycling vocabulary to reinforce it and introducing new vocabulary to simulate real test conditions is essential.

Another avenue I would like to explore further in my teaching is the role of rapid oral reading and repetition, as early research indicates that such practices may have a correlation to higher listening scores on the TOEIC test (Shimomura, 2015). In that respect, this year's teaching environment proved to be more of a help than a hindrance, with the mute function on Zoom especially beneficial in practicing without the hesitation normally felt in a classroom.

The use of ETS Official Test Prep practice tests outside of the classroom should also be encouraged as a powerful teaching tool. These mock tests allow students to become more comfortable with format and content, and more familiar with the narrators in the listening section, which is of particular significance considering test-takers can hear these same narrators on the official TOEIC test. Other suggestions for further study could include intensive reading for increased reading speed, and the study of authentic English, whether it be in simulated situations such as movies and television programs, or real-life situations such as online blogs or forums, so as to augment the chances of encountering language similar to that found on the TOEIC.

As a native English-speaking teacher, the increasingly authentic nature of English on the test strikes me as particularly relevant. Until now, Japanese English teachers have perhaps been more valued as teachers of

TOEIC courses for their ability to explain grammar items and for their deeper understanding of the difficulties of test-takers, as they themselves have more direct experience with the test, approaching it as non-native speakers. Now, the addition of simulated real-time exchanges brings a level of authenticity that will potentially allow more native speakers to maximize their own strengths in the TOEIC classroom.

This brings me once again to the goals of the TOEIC course, which I now see as three-fold: 1. to teach a body of material and/or skills that can be measured within the time constraints of an intensive course for the purpose of awarding credit; 2. to foster understanding of language usage and introduce skills and strategies that allow test-takers to better understand content efficiently and effectively, resulting in improved TOEIC scores; and 3. to encourage, in the long-term, not only dedicated TOEIC study, but also activities to increase reading speed and deepen understanding of language, as well as continued study of language usage in real-life or simulated real-life situations. This last point, when addressed, will aid in keeping the study of TOEIC relevant for students not only as a tool to increase a score valuable for job hunting, but also meaningful as English learners who have grown up alongside technology and now learn to navigate their way in English in the digital world.

5. おわりに

今年度、「TOEIC 対策プログラム」に基づく学びを基幹教育の単位認定科目として開講し、コロナ禍において完全オンライン開催という初めての試みも行ったことを節目に、このプログラムの背景や TOEIC というテストの特質、長年指導してきた講師の視点からの報告を文章とし、公開することは意義があると考えます。

対策プログラムによる IP テスト（学校等で実施する団体受験）の点数の変化や受講生の受講後のアンケート回答の詳しい分析などは今後の研究課題としたい。

謝辞

本年度、単位認定対象と完全遠隔授業という新たな状況におけるプログラムの運営にあたっては、学務部キャリア・奨学支援課キャリア・就職支援係の関口駿氏より詳細に至るまで支援を受けた。また、外国人教員として、ダルシー・デ・リント氏もこのプログラムの一員として受講生を指導してきた。この場を借りて感謝の意を表したい。

参考文献

- Cid, J., Wei, Y., Kim, S., & Hauck, C. (2017). *Statistical analyses for the updated TOEIC Listening and Reading test* (Research Memorandum No. RM-17-05). Princeton, NJ: Educational Testing Service. <https://www.ets.org/Media/Research/pdf/RM-17-05.pdf>
- IIBC. (2016). *ETS Official Test Prep. TOEIC Listening and Reading Volume 1*. The Institute of International Business Communication.

- IIBC. (2017). *ETS Official Test Prep. TOEIC Listening and Reading Volume 2*. The Institute of International Business Communication.
- IIBC. (2017). *ETS Official Test Prep. TOEIC Listening and Reading Volume 3*. The Institute of International Business Communication.
- IIBC. (2018). *ETS Official Test Prep. TOEIC Listening and Reading Volume 4*. The Institute of International Business Communication.
- IIBC. (2019). *ETS Official Test Prep. TOEIC Listening and Reading Volume 5*. The Institute of International Business Communication.
- IIBC. (2020). *ETS Official Test Prep. TOEIC Listening and Reading Volume 6*. The Institute of International Business Communication.
- Inoue, N. (2005). What's Going on inside the pine tower of Babel?: Foreign language curriculum reform in a Japanese university. 井上奈良彦（編）. 国際化時代の大学英語教育：現状の足枷と新たな可能性.（言語文化叢書 16）. 福岡：九州大学大学院言語文化研究院, pp. 87-115.
- Inoue, N. (2018). Why is Q-LEAP doomed to be short-lived? 口頭発表. 第 183 回東アジア英語教育研究会, 2018 年 2 月 17 日, 西南学院大学.
- Kanzaki, M. (2018). New and old TOEIC L&R: Score comparison and test-taker views on difficulty level. *The 2017 PanSIG Journal*, 104-112. https://pansig.org/publications/2017/2017_PanSIG_Journal.pdf
- Shimomura, F. (2015). How to teach listening? The impact of rapid oral reading and repeating practices on TOEIC listening score. *International Journal of Languages' Education and Teaching*, 3(3), 234-241. 10.18298/ijlet.514
- Thornbury, S. (2019). Learning language in chunks. Part of the Cambridge Papers in ELT series. Cambridge: Cambridge University Press. <https://www.cambridge.org/elt/blog/wp-content/uploads/2019/10/Learning-Language-in-Chunks.pdf>
- Yasuda, S. (2015). An overview of the university English curriculum: A conceptual framework for curriculum innovation. *Bulletin of KIKAN Education*, 1, 102-117.
- Yasuda, S., Inoue, N., Suzuki, Y., & Wariishi, H. (2014). Fostering learner autonomy in the University-wide English curriculum: Curriculum innovation at Kyushu University. Paper presented at the JACET 53rd (2014) International Convention, August 28-30, Hiroshima City University.
- 井上奈良彦, 徳永美紀, 津田晶子, ペニンントン和雅子, ペニンントンランダル, & ハーランド ジェーン. (2010). TOEIC 学習者の傾向の分析と英語教育プログラムへの提言—日本人英語教員と英語母語話者教員の視点から. 大学教育, 15, 77-98.

- 九州大学. (2006). 平成 17 事業年度 国立大学法人九州大学事業報告書 (2006 年 6 月) https://www.kyushu-u.ac.jp/f/441/H17_enterprise_report.pdf
- 九州大学. (2007). 平成 18 事業年度 国立大学法人九州大学事業報告書 (2007 年 6 月) https://www.kyushu-u.ac.jp/f/442/H18_enterprise_report.pdf
- 鈴木右文. (2018). 学術英語カリキュラムの追求: 2018 年度九州大学英語新カリキュラム. 英語英文学論叢, 68, 35-47.
- 津田晶子. (2005). 大学英語教育プログラム分析. 井上奈良彦 (編). 国際化時代の大学英語教育: 現状の足枷と新たな可能性. (言語文化叢書 16). 福岡: 九州大学大学院言語文化研究院, pp. 1-86.
- 那須幸雄. (2004). わが国大学におけるキャリア教育の現状と動向: 中部, 関西, 九州の代表的 9 大学に見る事例研究. 文教大学国際学部紀要, 15(1), 81-95.